KUSHIMOTO

串本

未来へ翔けるまち

串本町町勢要覧

和歌山県串本町

発刊によせて

平成17（2005）年4月1日、串本町と古座町の合併により新しい串本町が誕生しました。

豊かな自然環境に恵まれている本州最南端の串本町。

年間平均気温が17度と温暖であり、東西に長く延びる海岸線沿いの世界最北限のサンゴ群落の海域は、平成17年11月にラムサール条約登録認定を受けた世界に認められる美しい海です。

串本町は日本・トルコ友好の原点とされています。明治23（1890）年、トルコ軍艦エルトゥールル号が樫野崎で座礁沈没した際、先人の不眠不休での救助活動や非常用食料を供出し生存者の介護に努めたことによるものです。

この町勢要覧では、歴史、観光、産業など様々な観点から串本町を紹介しています。

多くの方々にご高覧いただき、私たちが誇る魅力いっぱいの串本を知っていただければ幸いです。

串本町長　田嶋　勝正

本州最南端のまち

黒潮の恵み、雄大な自然美がきらめくまち

串本町

Contents

発刊によせて

串本 Selection ―― 2

嵐の夜を照らす 希望の光 ―― 6

国際交流 絆は時を越えて ―― 8

海を彩る生命 世界最北限のサンゴ群落 ―― 10

串本 × 体感
本州最南端で感動体験 ―― 12

産業 × 挑戦
挑戦のエネルギー ―― 14

防災 × いのち
いのちを守ること、声をつなぐこと ―― 16

翔ける ―― 共に、未来へ
「逃げる」から「逃げ切る」へ ―― 18
協働で取り組む医療と福祉 ―― 19
いきいきと心豊かに ―― 20
未来へと翔けるまちのチカラ ―― 21
自然と語らい自然から学ぶ ―― 22
まちづくりに熱く人にあたたかく ―― 23

議会 ―― 24

串本町 INFORMATION ―― 25

串本の歴史と文化 刻(とき)の証人 ―― 26

串本町タウンマップ ―― 28

太平洋に広がる海に抱かれ、紀伊山地と隣接する山林が広がる串本のまち。
リアス式海岸による奇岩・怪石が雄大な自然美を造り出しています。

串本 Selection

ファインダー越しに写るのは
景勝地・串本の風景美。
見るままに、感じるままに
人々の心に刻み込まれていきます。

3		1
5	4	2
7	6	

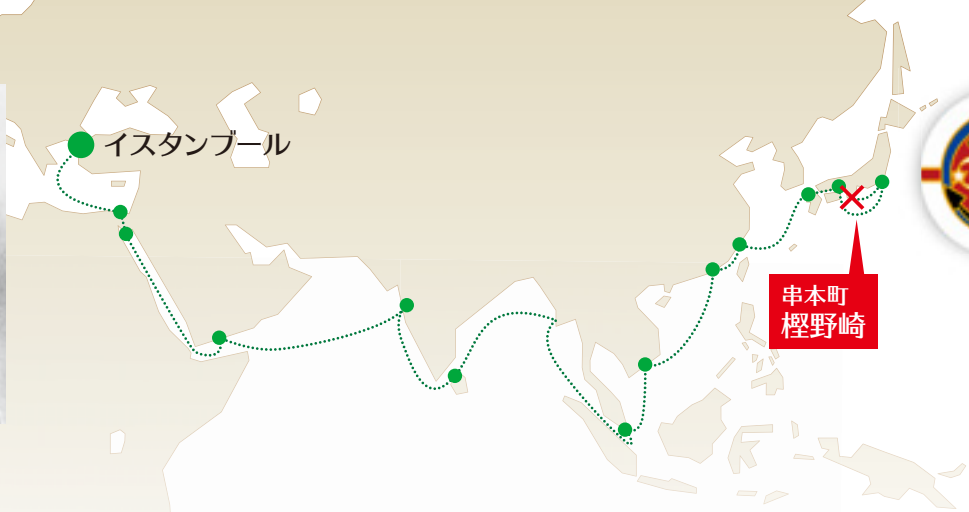
1. 3万坪の炎が泳ぐ潮岬望楼の芝「本州最南端の火祭り」　2. 初夏の浜辺をそよぐハマヒルガオ　3. 緑がまぶしいアオサの彩り　4. 時を忘れるほどに美しい夕景　5. 今日もまちに潮騒が響く　6. 鋭く切り立った岩礁に神々しさを覚える海金剛　7. 朝霧に立つ古座大橋

串本 *Selection*

時が移ろい、季節が巡り合い
無数の彩りが重なって、
蒼き楽園の風景は目にも鮮やかな
美しいコントラストを放ちます。

1. 太古から続く「本州最南端の一日」　2. 豊漁の海に航路を描くイカ釣り漁船　3. 自然のダイナミックさを体感する古座川カヌー　4. 朝霧に包まれる海の目覚め　5. 日本最古の石造灯台と水仙　6. 桜の向こうに広がる穏やかな街

オスマン海軍少将



嵐の夜を照らす希望の光

ああわれら、とわに語らめ――。
一つの海難事故が生んだ政治・社会・外交のつながり。
忘却されてはならない、海と人のドラマです。

エルトゥールル号の遭難

明治23（1890）年9月16日、大島樫野崎沖合で、当時のオスマン帝国軍艦エルトゥールル号が遭難。熊野灘を襲った台風による暴風雨と高波に軍艦は進退の自由を失い、船体が座礁、沈没しました。乗員656名のうち、オスマン海軍少将をはじめ将校ら587名が命を落としたこの大惨事は、日本における初めての大規模外国船海難事故として記録されています。

艦と親善使節

エルトゥールル号は、オスマン帝国後期、国力維持のため海軍の近代化が進められる最中、イスタンブールのタシュクザク造船所で1855年に起工、1863年に進水した船です。オスマン海軍の練習艦となった後、1889年7月14日、艦長をアリ・ベイ大佐とし、明治天皇への親書とオスマン海軍少将を特使とする親善使節団、軍楽隊などを乗せ、日本に向けて出航しました。

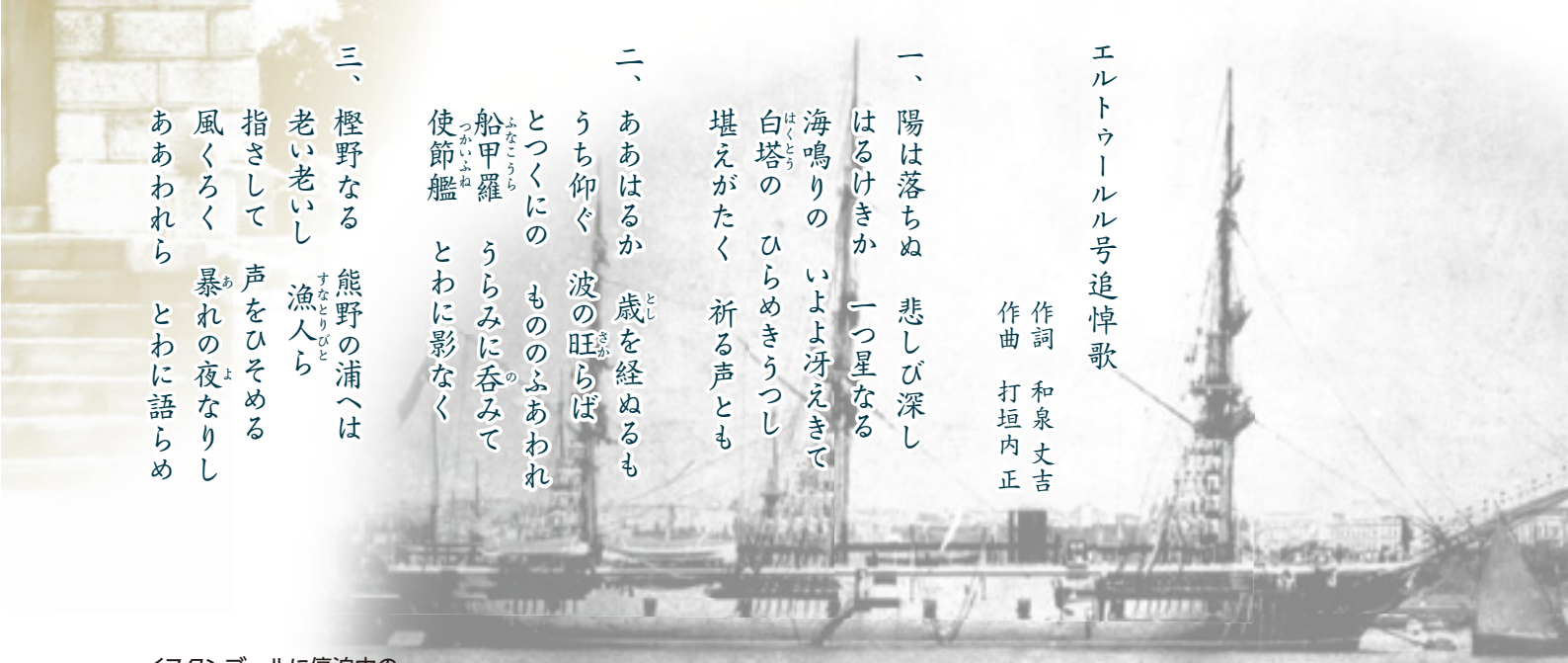
エルトゥールル号追悼歌

作詞　和泉丈吉
作曲　打垣内正

一、陽は落ちぬ　悲しび深し
はるけきか　一つ星なる
海鳴りの　いよよ冴えきて
白塔（はくとう）の　ひらめきうつし
堪えがたく　祈る声とも

二、ああはるか　歳（とし）を経ぬるも
うち仰ぐ　波の旺（さか）らば
とつくにの　もののふあわれ
船甲羅（ふなこうら）　うらみに呑（の）みて
使節艦（つかいふね）　とわに影なく

三、樫野なる　熊野の浦へは
老い老いし　漁人（すなどりびと）ら
指さして　声をひそめる
風くろく　暴（あ）れの夜（よ）なりし
ああわれら　とわに語らめ



イスタンブールに停泊中の
エルトゥールル号

トルコ軍艦遭難慰霊碑

昭和12年に除幕。トルコと日本の親愛を象徴するかのようにそびえ立っています。

エルトゥールル号乗組員

20名編成の軍楽隊や、多数の海軍兵学校修了生など、600名を超える乗組員でした。

遭難事故と救助活動

当時の首都イスタンブールを出航したエルトゥールル号は、およそ一年間の航海を経て、明治23年6月、横浜に到着。使節団は明治天皇に拝謁し、時の皇帝であるアブデュルハミト2世の親書や勲章などを奉呈し、大役を果たしました。

トルコへの帰還準備が整った9月は日本の台風シーズン。しかし、コレラによる検疫などのため長期間足止めされていたエルトゥールル号は帰国を急ぎます。そして横浜を出航し、紀伊半島付近で暴風雨に遭遇、紀伊大島の東端、樫野崎の岩礁に激突し、沈没してしまったのです。

事故の際、そんな荒波の海を照らしていたのが樫野埼灯台の光です。紀伊大島の人々は海での遭難を何度も見てきた経験を元に、生存者の救出活動から遺体の収容、埋葬までを不眠不休で行ったといわれています。灯台の光は、献身的に救助・看護する紀伊大島の人々を照らしました。島民たちは当時貴重な食料であった畑の芋や非常食用の鶏、衣類などを惜しみもなく提供し、言葉も通じない異国の人々の介護にあたりました。荒れ狂う海に放たれた灯台の閃光は、一命を取り留めた乗員を生きる希望へと導いた光だったのかもしれません。わずかな生存者であった69名は、神戸に移送された後、日本海軍の軍艦「比叡」「金剛」の2隻によって本国トルコへ送還されました。

遭難者53名のカルテと一緒に見つかった、医師3名が書いた文書の一部

エルトゥールル号の遭難事件後、負傷者への薬代や治療代の精算をトルコ本国から求められました。しかし、治療を担当した医師らは、負傷者をただひたすらに救助したいという一途な思いがあったことから、トルコへは代金を請求せず、義援とする旨を申し出ました。

樫野埼灯台の光

神戸・和田岬消毒所で手当を受けた乗組員たち

生存者は神戸へ移送後、明治天皇から派遣された侍医による手当を受けました。

大島村長の日誌

事故当時、大島村の沖周村長が記したもので、事故の様子が克明に記録されています。

国際交流
絆は時を越えて

心と心の交わりは、やがて国と国とを結び、
固い絆でつながり合ってきました。
友好の証は今も刻み続けられています。

トルコ共和国 メルシン市・ヤカケント町

昭和60年3月20日付　日本経済新聞

エルトゥールル号遭難時の串本の人々による生存者の救出活動や遺体の収容、埋葬といった手厚い行為は両国の絆を強く結び付けました。トルコ北部黒海沿岸の港町であるヤカケント町は、樫野崎の漁村風景とよく似ており、エルトゥールル号遭難慰霊碑を参拝したトルコ議員団による働きかけがあり、昭和39（1964）年11月11日、姉妹都市提携が宣言されました。また、昭和50（1975）年10月8日に姉妹都市提携を結んだトルコ共和国のメルシン市には、樫野崎の慰霊碑と同一の碑が建設され、青少年の相互親善訪問など、盛んな交流が続いています。

トルコ記念館

遭難したエルトゥールル号の模型や遺品、写真などを展示しています。

City of Hemet

City of Torres

大島小・中学校の児童・生徒たちによる慰霊碑の清掃

「トルコとのつながり」を受け継ぐかのように、子どもたちによる清掃が続いています。

串本町樫野崎沖で行われたエルトゥールル号殉難将士洋上追悼式典

平成22年6月、日トルコ友好120周年を記念し、海上自衛隊護衛艦上で開催されました。

メフテル軍楽隊の行進

オスマン帝国時代から続く軍楽隊。日トルコ友好120周年の文化交流事業として披露されました。

トルコ建国の父 アタテュルク像

エルトゥールル号が遭難した海域が見渡せる樫野崎に建つ、トルコ初代大統領の銅像。

真珠色に輝く ダイバーの命
～木曜島の真珠貝採取～

明治時代以降、オーストラリアとニューギニアの海域で真珠貝（白蝶貝）の採取が盛んに行われました。中でも中心になったのが木曜島で、最盛期には1,000人を超える日本人ダイバーが従事。潜水病や強い海流といった過酷な労働条件によって、命を落とした日本人はのべ700人にのぼり、その内150人が串本町民だったといわれています。

採貝に使用された潜水服

オーストラリア連邦 トレス市

串本町とオーストラリア連邦クイーンズランド州トレス市は、平成23（2011）年12月7日に友好都市提携を結びました。明治時代中期から昭和時代初期にかけ、多くの日本人がオーストラリア北部の木曜島などへ渡航し、ボタンや装飾品の材料になる白蝶貝を採取。串本町からも多くの若者たちが現地へと赴きました。見知らぬ土地の海で、危険かつ過酷な潜水作業の中、多くの若者が命を落とした歴史。それは国際的なつながりによって後世へと語り継がれていくものとなりました。

友好都市宣言合意書の調印式典

田嶋町長とスティーブン市長が署名。友好と発展、友情の深まりを誓い合いました。

日本人墓地に建つ慰霊塔

潜水作業によって落命した日本人を弔う慰霊塔がトレス市に建立されています。

Yakakent Belediyesi

Mersin Buyuksehir Belediyesi

アメリカ合衆国 ヘメット市

海に囲まれた串本の地では、早くから外国船と接触がありました。ペリー艦隊の浦賀来航よりも62年も早い寛政3（1791）年、アメリカ商船のレイディ・ワシントン号とグレイス号の2隻が樫野崎近くに停船、交易を求めてきました。アメリカにとって日本初上陸となるこの出来事を機に、串本町では大島に日米修交記念館を建立。その開設に協力を得たヘメット市と昭和49（1974）年12月21日に姉妹都市提携を結びました。アメリカ商船の来航は串本町にとっても誇りとなり、歴史的な物語として後世に伝えられています。

日米修交記念館

2隻のアメリカ商船が来航した際の様子を解説するジオラマや写真、船の模型などを展示しています。

串本駅前の レイディ・ワシントン号記念碑

平成7年5月に設置。海を越えてやってくる人々を温かく迎えたいという串本の人々の思いが込められています。

黒潮の暖流によって創造された北緯33度のサンゴ群落。悠々と泳ぐ魚たちや、極彩色にきらめくサンゴ群落は、見る者を別世界へと誘います。

本州最南端、紀伊半島先端の串本沿岸海域は、リアス式海岸で、そのほとんどが水深20m以下と浅く、透明度の高い海が広がっています。この海域は、フィリピン沖から太平洋を北上する世界有数の暖流「黒潮」が接岸するため、海水の年間平均表面水温が21・1℃という温暖な環境。このような環境によって、北緯33度という高緯度にありながらも、サンゴをはじめとする熱帯性の生物が豊富に見られる地域となっています。

この世界最北限に位置する特別なサンゴの海は、国の重要な自然保全域である海中公園地区（現・海域公園地区）として、昭和45（1970）年に国内初の指定を受け、さらに平成17（2005）年11月には、国際的な環境保全条約であるラムサール条約湿地に登録されました。国内の登録地は46か所あり（2012年：環境省）、サンゴ群落生域は串本と沖縄慶良間（けらま）諸島の2か所だけとなっています。

海を彩る生命

世界最北限のサンゴ群落

太陽の光が届くところに映る生命の神秘。
串本の海には約125種のサンゴが神秘的な姿を重ね
色鮮やかな海中景観を織り成しています。

私たちが恩恵を受けている水辺の自然生態系。それらの保全と賢明な利用「wise use」をラムサール条約は提唱しています。串本町では、そんな条約の理念を尊重し、すばらしい海を未来の子どもたちに残せるよう、「ラムサールの海を守る町」を宣言。地域住民による清掃活動や、サンゴの天敵であるオニヒトデの駆除活動などを続けています。国際的にも貴重な串本の海を愛し、これからも守っていきます。

オニヒトデの駆除活動

ラムサール条約登録認定証

世界最北限の
サンゴ群落・串本沿岸海域の
マスコットキャラクター
「アクロ」(左)と「ポーラ」

串本・みんなの海を守ろう会による
清掃活動

本州最南端で感動体験

県内屈指の観光地である串本町。空と海のパノラマから、海の中の世界に至るまでまち全体でレクリエーションを満喫できます。

古座川でカヌー体験

透明度が高く川底までくっきり見えるほどの清流で、美しい景観を満喫。

ビルフィッシュトーナメント

串本港を基地に近海でカジキを釣る大会。大物を狙い、クルーザーで出陣します。

マリンスポーツ

スキューバダイビングで海中を堪能。時間が経つのを忘れます。

串本海中公園

熱帯、亜熱帯の串本の海を堪能。沖合の海中展望塔から海底の様子が観察できます。

串本町の海では、夏の海水浴はもちろん、スキューバダイビングやウインドサーフィン、シーカヤックなど、海で遊ぶことのすばらしさに感動できます。また、清流・古座川では、カヌー体験が人気で、巨岩や奇岩の雄大な景観に圧倒されながら、自然と一体化できます。さらに脂の乗った海の幸や、フレッシュな柑橘類など、自然のおいしさを堪能できるグルメも満載です。

串本節踊り

花火大会

地元に伝わる民謡「串本節」に合わせて町民が踊る総踊りや、夜の海を照らす約4,000発の花火など、「串本まつり」が夏を盛り上げます。

サンゴの湯

弘法の湯

浴室の窓から紀伊大島が一望できる「弘法の湯」や、ゆったりとしたくつろぎの空間が人気の公衆浴場「サンゴの湯」があります。

潮岬望楼の芝

約10万m²の芝生が広がる先は、弧を描く太平洋の水平線。壮大なパノラマを眺めながらキャンプが楽しめます。

田原海水浴場

荒船海岸横に広がり、紀伊大島が望めるロケーションで、海水とビーチの美しさに定評がある白砂の海岸です。

橋杭海水浴場

名勝・橋杭岩のすぐそばにあり、海水の透明度が高い海水浴場。吉野熊野国立公園の明媚な景色が目の前に広がります。

しょらさん鰹

串本はケンケン漁発祥の地。2～4.5kgと脂の乗りが良く、鮮度・品質ともに抜群です。

伊勢海老天丼

県内一の水揚げ量を誇る伊勢海老を丼には丸ごと一匹、味噌汁には半身を使った豪快な一品です。

串本マグロしゃぶしゃぶ御膳

串本育成マグロを使った新ご当地グルメ。赤身・中トロ・大トロを刺身としゃぶしゃぶで味わう、マグロ尽くしの贅沢御膳です。

干物

新鮮で活きのいい素材だからこそ、干物も風味豊かで絶品です。

マグロカツバーガー

低カロリーかつボリューム満点で、人気沸騰中です。

紀伊大島のキンカン

ビタミンPを多く含み、実も甘く、大きさ・品質ともに一級品です。

ポンカン

やわらかな果肉と、濃厚でコクのある甘さ、みずみずしさが絶品です。

アワビ

手のひらサイズにもなる大粒で、アワビステーキも人気があります。

本州最南端の道の駅です

道の駅「くしもと橋杭岩」

眼前に名勝「橋杭岩」が一望できる観光拠点。農産物や水産物などのお土産物が豊富な他、串本町や熊野地方の情報を提供しています。

産業×挑戦

挑戦のエネルギー

自然からの恩恵を大切に活かし、人々が手を取り合い、
地域の誇りとなっている地場産業。
串本の明日を拓く人々の力が秘められています。

世界中から注目される完全養殖 クロマグロ

近畿大学水産研究所
大島実験場長
澤田 好史さん

大島実験場は、温帯・亜熱帯性魚類養殖研究を目的として昭和45（1970）年に開設。その当初からクロマグロの養殖研究が行われ、平成16（2004）年には完全養殖クロマグロを初出荷するといった成果を収めています。以来、クロマグロ研究の最前線として注目される中、水産養殖や種苗生産の研究を続けています。地域に根付き、産学連携によって地元を発展させていくのが私たちの務めです。これからも、地域に住む人々と私たち研究機関との連携によって、串本の海で培われた研究成果が世の中に役立ち、漁業の振興に寄与していければと思っています。

高度衛生管理型荷さばき場 和歌山東漁協

和歌山東漁業協同組合
組合長
吉田 俊久さん

平成26（2014）年3月竣工の荷さばき場は高度衛生管理型で、流通する魚に安心・安全という付加価値を与える施設です。また、海面からの高さが18mのタワー部分は200名以上を収容できる避難施設にもなっている他、吹き抜けの場内では荷さばきの様子を見学できるなど、観光交流といった面での活躍も期待できます。串本にとって海は財産であり、その可能性は無限大です。今後は漁業を観光資源として発展させるなど、若い人が集まってくるものにしたい。そして、漁業によって紀南地方全体を繁栄させたい。新しい荷さばき場がそのシンボルになればと思います。

地の利を活かした
自然エネルギー事業

三井物産グループが運営する「南海いずも台ひかりパーク串本」は、日本で有数の日射量を誇る串本で平成25（2013）年3月に運転を開始しました。7515枚の太陽電池パネルを備えるメガソーラーで、年間230万kWhの発電量が串本町内で消費されています。濃紺のソーラーパネルは、紺碧の海や周囲の深緑とのコントラストが美しく映えています。再生可能エネルギーの学習の場としての活用の他に、より多くの人に串本・潮岬の魅力を知ってもらいたいですね。

三井物産株式会社
プロジェクト本部
環境・新エネルギー事業部
室長
瀧口 直人さん

知名度を高め販路拡大
ポンカンジュース

串本町重畳山の段々畑で太陽の光をたくさん浴びて育ったポンカンは、味が濃く、風味やコクに優れています。平成18（2006）年から生産を始めたポンカンジュースは、搾りたての100%ジュース。濃厚でフレッシュな味が大人気です。近年では、道の駅「くしもと橋杭岩」で販売中のポンカンソフトクリームが大ブレイクし、販路拡大にも期待が高まっています。今後は、収穫や手搾り体験の実施、ジャムやマーマレードといった加工品の開発などを進めていきたいと考えています。

重畳山果樹生産加工組合（かさねやま）
会長
中村 省一（せいいち）さん

地元特有のサツマイモ
なんたん蜜姫

潮岬の水はけが良い土地で、古くから栽培されてきたサツマイモ。地域振興につなげようとブランド化をめざしているのが「なんたん蜜姫」で、黄金色の果肉と蜜が出るほどの甘さが特徴です。家族みんなで栽培や収穫を楽しめる作業体験の他、「焼き芋アイス」といった加工品の開発にも力を入れてきました。会の発足以来、食味や品質が安定し、今では基盤ができあがってきたと思います。農家の方に「なんたん蜜姫を栽培したい」と思ってもらえるような組織に発展させ、栽培を拡大していきたいですね。

串本さつまいも会
広報担当
加藤 光太郎さん

防災×いのち

いのちを守ること、声をつなぐこと

「防災」に対する強い意識を高め合う串本町では、
より安全で災害に強いまちづくりに向かって、
住民の心は一つになり、地域が一丸となっています。

町民の防災意識の向上と、安全で災害に強いまちづくりを進めるための拠点となる串本町消防防災センターが完成しました。低地にあった消防本部と消防署を標高24mの地点に移転、消防車や救急車などの車庫の他、食糧や水などの災害用備蓄倉庫、住民が一時避難できる部屋、研修室、旧消防署にはなかった訓練棟などを設置。これまで役場本庁舎にあった防災行政無線の親局を移設し、震災・津波の災害時には対策本部を設け、初期活動を担います。巨大地震の発生が危惧される今日、センターの完成によって町全体の防災への意識が高まり、安心・安全への想いが一つになっています。

緊急通報時に発信者を素早く特定できる通話装置

町内の消防車が集結する出初式

串本町消防防災センター
サンゴ台の高台に平成24年12月に新設。
防災活動の拠点となっています。

地域防災への取り組み

町内の各地域では、自主的・主体的に防災対策に取り組んでいます。防災講座の開催、避難訓練の実施、地域の津波避難路の掘り起こしや確認・整備工事、町が計画した津波避難訓練・ワークショップなどへの参画など、その活動は多岐にわたっています。現在、地域における自主防災活動が積極性を持ち、活性化しています。

串本幼稚園の避難訓練

「地震が発生しました」という放送が流れると、園児全員が一か所に集まり、約100m先の避難場所まで全力疾走。串本幼稚園では、地震・津波災害に備えて天気の良い日は毎日欠かさず避難訓練を実施しています。今では転んで怪我をすることもなく、避難場所まで3分もかからずに移動できるようになりました。

荷さばき場にタワー建設

和歌山東漁協の荷さばき場建て替えに伴い、3階建てのタワーが建設されました。3階部分は海抜18mの高さで、データを保管するサーバーなどの機械類も建物の上層階に設置する他、災害時には200名以上を収容できる避難場所として対応。港で仕事をする人や、地域にとっての新たな防災拠点となっています。

上野山防災広場

地域防災の拠点施設として上野山防災広場が完成しました。自衛隊などの応援隊の集結場所、緊急物資の集積場所、ヘリポート、被災者用避難テントの設置場所、備蓄倉庫、被災者の飲料水を確保する耐震性貯水槽などが整備され、被災後の備えとして重要な役割を担う施設となっています。

防災

津波対策で小学校に救命胴衣を導入

「逃げる」から「逃げ切る」へ

災害に強い町づくり

南海トラフの巨大地震が発生した場合、串本町ではその地理的条件から、早いところでは地震発生後約3分で津波が到達、最大高の津波が到達すると平均5・7mの浸水深となり、広範囲な浸水区域の想定が出されています。避難3原則を守って必ず避難し、命を守り、被災後どのように復興するのか、自助・共助・公助の力が必要不可欠とされているなか、串本町では、防災拠点施設の整備に加え、他市町と比較しても膨大な数の避難路整備などを進めています。また、住民の間でも自主防災に対する意識が高まっており、防災講座や避難訓練を実施。今後も地域防災力向上のための組織的な防災活動を支援していきます。

災害に強い「命の道」建設の決起大会

住民の消防訓練

安心

くしもと町立病院

協働で取り組む医療と福祉

安心のある町づくり

少子高齢化や過疎化の進行、また生活習慣病の増加等により生活環境が急激に変化するなか、医療・保健・福祉の各分野が協働し、「元気に生きがいをもって」生活できる町づくりをめざします。医療の面では、海抜53mの高台に位置し、地域の中核病院となる「くしもと町立病院」の医療体制・救急体制のさらなる充実を図ります。さらに、健診や生活習慣病の予防に努め、働く世代の健康維持と高齢者の健康寿命の延伸を目標に事業を推進していきます。福祉の面では、高齢者福祉や児童福祉、障がい者福祉に取り組むとともに、乳幼児や学童などの保育を通して、子どもの健全な育成をめざします。

学童保育による子育て支援

わかやまシニアエクササイズに基づく「お元気プロジェクト」

教育・交流

町民大運動会

いきいきと心豊かに

人を育てる町づくり

人の心がより重要な社会の要素とされる時代である今、お互いの尊厳や自由と平等を尊重する社会づくりが望まれています。心にゆとりや潤いを与える公民館活動への支援をはじめ、文化・芸術振興の一環となる文化自主事業の積極的な推進に努めます。また、スポーツを振興することで世代を超えた地域住民の交流の機会を設け、地域の活性化を図り、快適で活力ある町づくりを推進します。教育においては、給食を学校教育の一環として位置付けし、町の食材を取り入れた献立の提供など、子どもに望ましい食習慣を身に付けさせるよう、食に関する指導を充実していきます。

町民総合展

町の食材を使った学校給食

産業

船を走らせながら擬似餌で誘うカツオのひき縄釣り漁法「ケンケン漁」

未来へと翔ける まちのチカラ

働く喜びのある町づくり

天然の漁場に恵まれた串本町は、漁業が基幹産業の一つとなっています。従来の「獲る漁業」に加え、クロマグロやマダイなどの養殖といった「育てる漁業」が盛んで、安定供給の確立とブランド化・産地化を進めている他、観光漁業をはじめとした漁業の近代化にも取り組んでいます。また、海・山・川などの豊かな自然や、本州最南端という地理的条件を活かした地場産業である水産・観光を中心に、農林業やその他の産業、商業・工業の面における後継者の育成や企業誘致、それぞれの連携による活性化を図り、「働き場所の確保」とともに「働く喜びのある」町づくりを推進していきます。

林業基盤の整備で林業経営を安定化

体験型メニューと民泊を組み合わせた教育旅行（無人島探検）

自然環境

串本海中観察会

自然と語らい自然から学ぶ

自然と共生する町づくり

平成17（2005）年11月に串本沿岸海域がラムサール条約登録湿地として認定され、世界最北限のサンゴ群落を守ることをはじめ、条約登録海域や周辺環境の保全事業、環境保全のための活動への支援などは、美しい海を有する町としての責務でもあります。串本の海を知るため、学ぶ機会の充実や、美化推進協議会との連携を密にした清掃活動や熊野古道大辺路の美化に取り組むなど、「自然豊かな環境にやさしい町」を築きます。また、古座川の美しい水から作られた「なんたん水」がモンドセレクション金賞を受賞したことを受け、今後は備蓄用の飲料水としてのみでなく、町のPRにもつなげていきます。

熊野古道大辺路の美化に取り組む町民

5年備蓄が可能な「なんたん水」

行政

役場本庁舎

まちづくりに熱く 人にあたたかく

協働の町づくり

多様化する町民のニーズに応えるとともに、質の高い行政サービスを提供できるよう、新たな時代の潮流に対応した行政組織の構築に努めます。また、行政・住民・企業が地域を豊かに発展させるための協働関係を確立し、分権時代にふさわしい町づくりに取り組んでいきます。具体的には、町民の要望に応じた情報の提供や双方向性を活用したシステムの確立を図ります。また、町民に親しまれる広報誌づくりに努め、広報公聴体制の充実を行っていきます。広域行政では近隣市町村との連携を深めることに取り組み、事業の効率化・合理化による適正な行財政運営をめざします。

役場窓口での対応の様子

古座分庁舎

議会

議員側

執行部側

自主・自立した豊かで活力のある町の発展に向かって

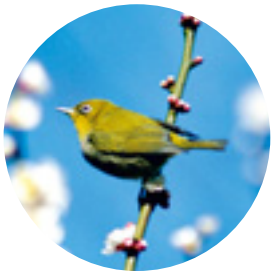
串本町議会は、選挙によって選ばれた議員によって運営しており、定例議会（年４回）と必要に応じて招集される臨時議会、重要案件を審議する特別委員会などがあり、町民の意思を十分に反映させながら、条例や予算などを審議・決定しています。議決された事項は直ちに執行機関により実行に移され、町民生活の向上に役立つよう進められています。二元代表制の下、執行機関との立場や権能の違いを踏まえ、希望ある串本町の未来のために運営しています。

串本町INFORMATION

串本町は、紀伊山地を背に潮岬が太平洋に突き出した本州最南端の町です。潮岬は北緯33度26分、東経135度46分で、これは八丈島とほぼ同緯度に位置します。東西に長く延び、雄大な自然美を造形するリアス式海岸は、吉野熊野国立公園及び枯木灘県立自然公園の指定を受けています。町の東部では水量豊かな古座川が流れている他、1・8kmの沖合には県下最大の島、紀伊大島があります。

町の魚
トビウオ

海面を滑空する魚で、未来に飛躍する町の象徴であり、「トッピー」の愛称で親しまれています。



町の鳥
メジロ

海岸沿いから山間部まで、広く町内に生息しており、古くから町民に親しまれてきた鳥です。

町の木
キンカン

ミカン科の常緑低木で、大島で多く栽培・生産。海に面した温暖な地を象徴する樹木です。

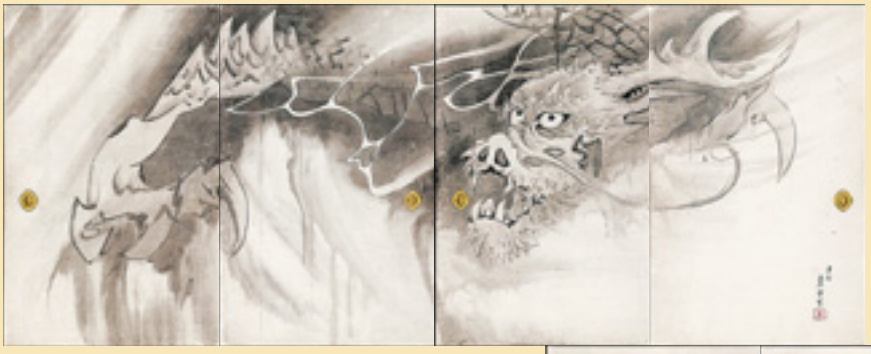
町の花
スイセン

青い海とのコントラストが美しい可憐な花。樫野や潮岬で多く植栽され、潮風になびいています。

本州四端協議会

串本町は、本州の端に位置する4つの市町（青森県大間町、岩手県宮古市、和歌山県串本町、山口県下関市）の間で設立された本州四端協議会に参加しています。協議会では、互いの地域活性化をめざし、各首長による「本州四端サミット」の開催など、それぞれの地域特性を活かしながらさまざまな事業を実施し、交流しています。

本州四端協議会の
ロゴマーク



◀龍図

方丈障壁画（長沢芦雪／無量寺）

長沢芦雪による襖絵で、大胆で伸びやかな構図の龍図や豪快な虎図。無量寺境内にある美術館の串本応挙芦雪館に保存されています。

虎図▼

橋杭岩

海の浸食作用によって岩の硬い部分だけが残ったもので、850mにも及ぶ岩柱の列。

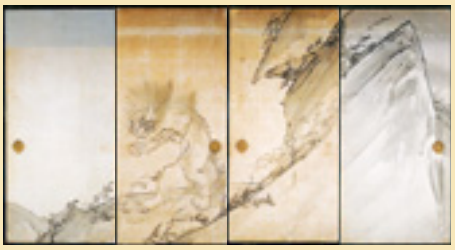
串本の歴史と文化

刻（とき）の証人

海からもたらされた数々の文化をはじめ、
遠い祖先から守り受け継がれてきた歴史や精神。
串本の地の存在を証明する物語がここにあります。

方丈障壁画（長沢芦雪／成就寺）

長沢芦雪によって描かれた、本堂45面を飾る襖絵が残されています。



国指定文化財

絹本著色 阿弥陀三尊像

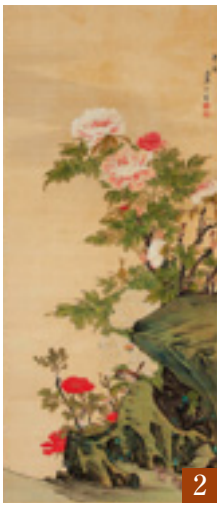
（恵心（源信）／善照寺）

善照寺所有。平安時代の叡山の僧である恵心（源信）の作と伝えられています。

河内祭（こうちまつり）の御舟行事

古座川流域の5地区が担い手となって行われる河内神社の例祭。江戸時代に栄えた鯨船に華麗な装飾を施し、軍船に見立てた御船が河内島（こうちじま）へと連なります。

1


2

3

4

5

1 紙本墨画大燈国師図（白隠慧鶴／無量寺）
2 絹本著色牡丹に雀図（長沢芦雪／無量寺）
3 紙本墨画楊柳観音図（長沢芦雪／無量寺）
4 紙本著色聖一国師像（伝吉山明兆／無量寺）
5 紙本淡彩出山釈迦図（円山応挙／無量寺）

大島水門祭（おおしまみなとまつり）

12名の漕ぎ手を乗せた船が大島から串本までを往復。その勇壮な櫂伝馬競漕が見ものです。

古くから海上交通の要衝として、漁業のまちとして栄えた串本。まちが開かれたのは縄文時代の頃といわれ、数多くの歴史的価値ある文化財や史跡、伝統ある祭りが残っています。円山応挙やその弟子である長沢芦雪などによる迫力ある筆遣いの障壁画をはじめ、海の歴史そのものを物語る橋杭岩、豊穣と息災、人々の幸を祈る伝統行事など、多種多彩に満ちています。それらは皆、地域の人々に守られ、まちの歴史を物語り、串本の未来を見守っていくのです。

県指定文化財

ねんねこ祭

木葉神社（このはじんじゃ）

頭におひつを載せたご飯持ち巫女による数百年続く祭りで、五穀豊穣や子安信仰、子孫繁栄を願う祭りです。

トルコ軍艦遭難慰霊碑

エルトゥールル号の遭難後、明治24年に「土国軍艦遭難之碑」を建立。昭和12年に墓地や記念碑が改修されました。

潮岬

本州最南端、太平洋に面する岬で吉野熊野国立公園の一部。明治6年に建設された潮岬灯台が航路を照らしています。

串本町タウンマップ

古座川
河内神社
38
至 新宮・尾鷲
木葉神社
きいたはら
田原海水浴場
荒船海岸
重山神社
重畳山
302m
古座観光協会
（JR古座駅内）
こざ
成就寺
善照寺
上野山防災広場
古座分庁舎
古座消防署
古座大橋
九龍島
鯛島
串本町
消防防災
センター
きいひめ
くしもと
町立病院
弘法の湯
サン・
ナンタン
ランド
道の駅「くしもと橋杭岩」
橋杭岩
サンゴ
の湯
橋杭海水浴場
くしもと
串本町観光協会
（JR串本駅内）
串本町文化センター
串本町立体育館
近畿大学水産研究所
大島実験場
串本町役場
無量寺
和歌山東漁業協同組合
40
紀伊大島
トルコ建国の父 アタテュルク像
樫野埼灯台
樫野埼灯台旧官舎
トルコ軍艦遭難慰霊碑
トルコ記念館
海金剛
日米修交記念館
潮岬東入口
くしもと大橋
41
通夜島
南海いずも台ひかりパーク串本

橋杭の立岩伝説

昔々、弘法大師と天の邪鬼（あまじゃく）が熊野地方を旅したときのお話。

絵：むろ けいすけ／天の邪鬼のキャラクター「あまのじゃっ君」

我こそは世界一の知恵者と自負していた天の邪鬼は、なんとかして弘法大師の鼻をあかしてやろうと、大島と陸地との間に橋を架けることを提案しました。

「それはよい考えだ」と弘法大師も賛成。ひと晩限定の橋の架け比べが始まり、「いくら弘法大師でも、まさか一夜で橋を架けることはできまい」と油断する天の邪鬼でした。

やがて海中に次々と巨岩を立てていく弘法大師を見た天の邪鬼はびっくり仰天。「このままだと夜明けまでに橋ができあがってしまう。何か邪魔する方法はないだろうか…」

「コケコッコー」と鶏の鳴き声をまねする天の邪鬼。弘法大師は「夜が明けた」と思って仕事を中止してしまいました。そのときの巨岩が今も残る橋杭岩なのでした。

サン・ナンタンランド

サン・ナンタンランドは、串本町の街並みや海が一望できる高台にあり、野球場や多目的グラウンド、テニスコート、雨天練習場、温水プールなどが整備されたスポーツレクリエーションの拠点施設です。

未来へ翔けるまち

串本

串本町町勢要覧

発行年月：平成26（2014）年3月
発行：和歌山県串本町
〒649-3592
和歌山県東牟婁郡串本町串本1800番地
TEL：0735-62-0555
http://www.town.kushimoto.wakayama.jp

制作：株式会社 日本出版

この冊子は、森林認証のパルプを
一部配合した紙を使用しています。
VEGETABLE OIL INK